

日常に漆器のある暮らし

げん・こう
木とうるし 源・香
(今在家町)



普段の生活に彩りを

阪急庄内駅から歩いて20分ほど、所々畑が残る風景の中に、漆作家である林源太さんの工房兼ギャラリー「木とうるし源・香」があります。そこには座卓や棚といった家具からお椀やお皿などの器まで、多彩な漆塗りの作品が心地よく並べられ、一つひとつじっくりと鑑賞することができます。

「漆器と言いつと、高級品改まったときに使う器、手入れが難しいと敬遠されがちですが、口に触れるときの温かみや自然の柔らかな色合いなど、漆の素晴らしさを知っていただきたい。何度も重ね塗りした漆は堅牢で、普段の暮らしで気軽に使っていただけです」と林さん。生活に彩りを添える新しい提案をしていきたいと、作品づくりに日々工夫を重ねて

います。なるほど、ギャラリーでは、緑や黄色のモダンな色使いや、不思議な質感の作品などが目に留まります。

どこにもないような 質感やデザイン

子どもの頃、レゴや工作が大好きだったという林さんは、作品を構想するときには立体的な造形から発想がふくらむとか。一般的に漆芸では、木地作りと塗り分けの世界ですが、自分の思い描く形を作り上げるため、木地作りから一貫して制作しています。木の風合いを生かすため、多種の材木をストックし、また産地ごとに異なる性質の漆をブレンドして使うなど、素材にこだわります。「漆は塗料として万能な素材。顔料や染料、金属粉で色合いや光沢を変えたり、

豆腐や植物の種、葉などで質感に変化をつけたりと、塗り方には無限の広がりがあります。制作過程で偶然にできる風合いも大切に、最近では、緑の透明漆や「いぶし銀塗」など独自の塗りを研究しています。」

漆器に対する私たちの固定観念を覆す数々の作品に触れてみてはいかがでしょうか。



Here

今在家町8-15
電話/FAX:06-4866-1388
メール:genta_urushi@mac.com
ホームページ:http://genta-urushi.com
工房・ギャラリーの見学は事前に連絡を。



暮らしと表現

表現活動は 生きる原動力

生活介護事業所 「糸をかし」 (服部寿町)



立ち稽古で息を合わせます
毎日欠かさず行う発声練習と柔軟体操

人形劇などを活動の中心に据えたユニークな生活介護事業所が市内にあります。

生活の中心に表現活動

「糸をかし」では、障がいのある24人の利用者が食事をはじめとする生活支援を受けながら、こんにやくの製造に取り組んだり、手芸や音楽、書道、体操などに挑戦したりしています。そのなかで人形芝居「ぬくぬく座」とちんどん「てんでこまい座」は、利用者で結成された全国でも珍しい取り組み。その実力も様々なところから公演を依頼されるほどです。

役者としての自覚

事業所の開設と同じ平成7年(1995年)に結成された人形芝居「ぬくぬく座」は20年のキャリア。体を動かすことや楽しいことが大好きな利用者に向けていると、サービス管理責任者の西口敏江さんが取り入れました。「言葉や動きに不自由はあるけれど、みんなとても表現豊かで魅力的。それぞれの個性が思いっきり発揮できます」。

各人の持ち味を引き出すようなストーリーづくりは西口さんの担当。他の職員や外部指導者が衣装や舞台装置を制作するなど、みんながオリジナル作品を練り上げます。「日常では洋服の着方が変だと言っても聞かない人が、人形劇の



保育所、幼稚園、小学校、福祉施設などの依頼公演のほか、自主公演も行います

仕事の責任感と やりがい

衣装はちゃんと直せる。役者という自覚と責任感がそうさせているのですね」と西口さん。

個性豊かなメンバーによる、ちんどん「てんでこまい座」

は平成13年に旗揚げ。踊りや音楽、華やかな衣装が好きというみんなの天性にぴったり(西口さん)。「普段は朝なかなか起きないのに、ちんどんのときはどんなに早くても自分で起きて出かける」と保護者が驚くくらいの仕事への責任感。仕事先では、我先にとせつせとピラ配りを頑張るちんどん座員たち。「地域の人が喜ばれることはみんなのやりがいにつながっています」と西口さん。一人ひとりを深く知り、地域に貢献する活動に結びつけています。「生きることは表現すること」を実践する活動は、演じる人も見る人も幸せな気持ちにしてくれます。



地域のイベントや開店セレモニーでは、おひねりをもらうことも

